

融資先企業の資金制約を通じた金融機関の評価

九州大学 野澤 亘

九州大学 馬奈木 俊介

貸出市場には、都市銀行・地方銀行を含む普通銀行に加え信用金庫などの協同組織金融機関も存在し一定のシェアを占めている。これらの協同組織金融機関は、非営利組織であることや営業対象・営業地域に制約があるなど普通銀行と異なる特徴を持っている。本研究では、企業のパネルデータを用いて、メインバンクの業態が融資先企業の資金制約にどのように影響するか検証をおこなった。

資金制約の指標としては、投資のキャッシュフロー感応度を用いたが、その信頼性には議論がある。本研究の予備的分析の推定結果は、企業年齢あるいは企業規模が上がるにつれ投資のキャッシュフロー感応度が下がることを示しており、資金制約の指標として有用であるとする先行研究と整合的な結果となった。

メインバンクの業態ごとの投資のキャッシュフロー感応度の推定結果は、信用金庫と普通銀行の間に有意な差が存在することを示した。この有意な差は、企業規模で層別して計測した場合でも小企業の間で観察された。企業年齢で層別した場合にはどの年齢層でも有意でなかったが、若年企業間でおおよそ4%、中年企業間でおおよそ6%だけ信用金庫をメインバンクとする企業の方が投資のキャッシュフロー感応度が低いという結果となった。これらの結果はいくつかの定式化、変数の変更にも頑健であった。